

万木洋平 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 梅 北 善 久
同 中 村 廣 繁

主論文

Podoplanin expression in cancer-associated fibroblasts predicts poor prognosis in patients with squamous cell carcinoma of the lung

(癌関連線維芽細胞のポドプラニン発現は肺扁平上皮癌患者の予後不良を予測する)

(著者：万木洋平、若原誠、松岡佑樹、坂部友彦、窪内康晃、春木朋広、野坂加苗、三和健、荒木邦夫、谷口雄司、塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成29年 Anticancer Research 37巻 207頁～214頁

参考論文

1. Case of thoracoscopic right upper lobectomy for lung cancer with tracheal bronchus and a pulmonary vein variation

(気管気管支と肺静脈異常を伴った肺癌に対する胸腔鏡下右肺上葉切除の1例)

(著者：万木洋平、中村廣繁、谷口雄司、三和健、藤岡真治、春木朋広、高木雄三、松岡佑樹、窪内康晃)

平成24年 Asian Journal of Endoscopic Surgery 5巻 93頁～95頁

2. 12年間の経過観察後に切除され診断が確定したオカルト甲状腺乳頭癌の孤立性肺転移の1例

(著者：万木洋平、鈴木喜雅、中村廣繁)

平成28年 日本呼吸器外科学会雑誌 30巻 148頁～152頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺扁平上皮癌完全切除例126例を対象とし、腫瘍細胞及び癌関連線維芽細胞におけるポドプラニン発現を免疫組織化学的に評価し、臨床病理学的因子及び予後との関連を後方視的に検討したものである。その結果、癌関連線維芽細胞にポドプラニンが発現している群では、進んだ病期や胸膜浸潤の存在と有意に相関し、無病生存期間及び疾患特異的生存期間において、独立した予後不良因子であることが示された。

本論文の内容は新知見に富むものであり、その成果は肺癌研究に貢献するとともに明らかに学術水準を高めたものと認める。